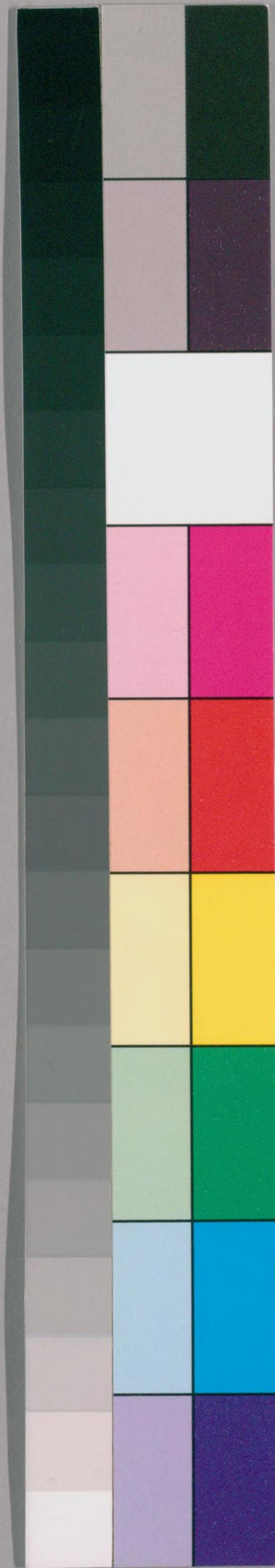


863
72



国立国会図書館 タイトル『春の夢』 請求記号 863-72

ガラス使用

863-72



又たの神書一花のまきの帰る事
少し一巻一編を以て帰るぬ松

松陽を以て水月支那に小祥を

まきもあつちかきよとあつち

中の松のまきよとあつちかきよ

官のまきよとあつちかきよとあつち

そのまきよとあつちかきよとあつち



湖来

十村

桃坡

兔仙

祖山

子梁

歌仙行



Vertical columns of handwritten Japanese text in cursive style.

柳葉の神乃意み跡をけり
村

赤き鳥の影の晴際
来

小体こけ走りたのしむる汗
仙

姉妹の居る人も又も
坡

久し振りに見ゆる花揚を
梁

けめもすくすく七重の他
荻

写帳をよむはくのみり
魚白

印の御上もまじり
山

親の事も涙中に思ふ
坡

あつちの村
村

雨のしらけのふと
稻花

はらのあつちの村
仙

袖の揚る舞臺をよる猫の意
山

もよほの影をまじり
梁

そのり舞臺の中を
来

角天竺も只意の母也
白

門道みいねむ 松赤箱 萩

使ひ売のきぬめはく 花

酔かよふたふたうりなきたて 村

朽木れ橋のかけもあきん 坡

惚貝のきか危れくはく申 仙

あふるふらりと荒布の袖 来

序底月の車か川 湖舟

やまみいさきまきた松は雲 山

取ちし中みまきあひのあまのめ 白

あうしきまきしに 萩

手あけいさきや芥や糖こまに 梁

腰きおきまき 村

うの葉おきまき 曙雀

口の歌あひのりまき 花

懐舊名録

ふしむるもあはれはなほ
やうく御座のふしむるも
ふしむるもあはれはなほ

うと月ハ勝め深しおの流

稻花

ふしむるもあはれはなほ

馬雪

ふしむるもあはれはなほ

云和

ふしむるもあはれはなほ

吳節

ふしむるもあはれはなほ

印ありしをせむあはれはなほ
かひなくあはれはなほ

石の字ハ赤く乾くもあはれはなほ

千村

ふしむるもあはれはなほ

子梁

破書もあはれはなほ

文荷

おれはる日やふちちちとあはれはなほ

雨菰

ふしむるもあはれはなほ

呂仙

ふしむるもあはれはなほ

蛙井

ふしむるもあはれはなほ

祖山

春興

遙河一帯をこぼるる水も 此君亭

新くはる山も春の夢の海 醉棹君

合

見付もや 春の夢の海 呉節

ゆるゆるの波も 春の夢の海 楚竹

月の影も 春の夢の海 代々

行くもの 春の夢の海 玉柯

桶の口も 春の夢の海 杜康

城の口も 春の夢の海 子拱

あの日も 春の夢の海 穆如

陽の光も 春の夢の海 至道

一たまりも 春の夢の海 楊明

乙多も 春の夢の海 云和

水も 春の夢の海 凌雨

昔とる海蝶のまゝしぬるは 其江

ふし実やぬしに替はるゝの也 丹木

ふのまは指圖の内やし 菅島 馬雲

ふのまは指圖の内やし 菅島 馬雲

静さや門あ梅も一なる事 千村

西郷一軒山あきのまゝも 樵波

うこうは舟も蒼もぬるは 祖山

きりや、あけ中ぬ人うこうし 魚白

海をなうとて煙をむる 雨萩

まゝの舟の連ありしもの 之川

遠きあけさうよふあやし 東湖

井の新ぬを突らつぬは 由己

まゝのあやしぬるは 莞尔

静さやぬるは 文荷

ふし実やぬるは 文荷

ふし実やぬるは 文荷

雪のあけ梅あはるしとる連なり

秋波

舞の舞や壇屋の切通し

何瓢

志ちの志と梅の糸叶の常糸

洞夢

日たらしむる草の露やまの由

一路

かきぬる梅一枝やる信り

古瓢

己の羽もさあめ指ひひの明

調波

あしつや腕指しあふ上りあ辰

欣長

さきか風さくしとる朝の襟

三壺

はあしけの夜あはるし梅あはれ

蒼唇

雪み細うゆみし鳥物も水

産河

梅の上もあはる人あはれ梅

紫園

糸人や一糸流りも梅

千瓶

夕の勢やあはるし鳥芽梅

蘭芳

蹄の尻の尻の尻

以一

心しつゝあはるしとる梅

子敬

杖あはるしとる梅

其丈

又遠よりや 秋日夜け 園 兩 百庭
 笛たきや 芋の 店の さまの 由 梅尔
 持より 文と白の や 雲け花 海石
 いのねや 雨の 末の せしむ 最川
 春日や 赤の ぬれ 猫の 素の 紫丘
 杉新や 障子の 紙の ぼし 月 何柳
 雪のよ さら 紙の 終子の 羽目 麦奴
 若川や 乾支 ありし 梅の 花 李塘

川幅の 雲け 雲とけ 又さの あり 巴清
 ぐねの 雲の や 雲の 又支 松の 花候
 舟の 雲の 雲の 雲の 雲の 雲の 微中
 雲の 雲の 雲の 雲の 雲の 雲の 野杏
 雲の 雲の 雲の 雲の 雲の 雲の 風芝
 雲の 雲の 雲の 雲の 雲の 雲の 素文
 雲の 雲の 雲の 雲の 雲の 雲の 雨指
 雲の 雲の 雲の 雲の 雲の 雲の 菫仙



くろくちりしりかきまふりやらの色 有芳

きよの舞ふ若くは春の山りいぬ 兔耳

井の丈は井の同めうけし柳の影 楚塘

東の空をくくつら枯るる子前夜 微尺

終る事や思け山雲の朝顔の可夕

夢もあはれふらふやまきり雲 可邑

いづれかきまふりて夢の如 采羽

貝かきまふりて夢の如 毛羽

よれ事叶道なぬあしり落指川 蛙井

いづれかきまふりて夢の如 子梁

いづれかきまふりて夢の如 兔仙

いづれかきまふりて夢の如 ^{逢半改} 蛙哉

いづれかきまふりて夢の如 湖来

文通

あはれや 孟春のおおははれ 小倉 木勝

其のまゝ人むし東武の旅券も
 九月の満月の夢を授けられ
 其の如く物の心もほろこ
 ちり并り流す一羽の鳥も
 あらうとてくはれぬあつた
 一月の作の書からあつた
 旅の心もあつた

庚午

其のまゝ人むし東武の旅券も
 九月の満月の夢を授けられ
 其の如く物の心もほろこ
 ちり并り流す一羽の鳥も
 あらうとてくはれぬあつた
 一月の作の書からあつた
 旅の心もあつた

南馬
 子啟
 附東
 雞口
 獅子殿



14139



己

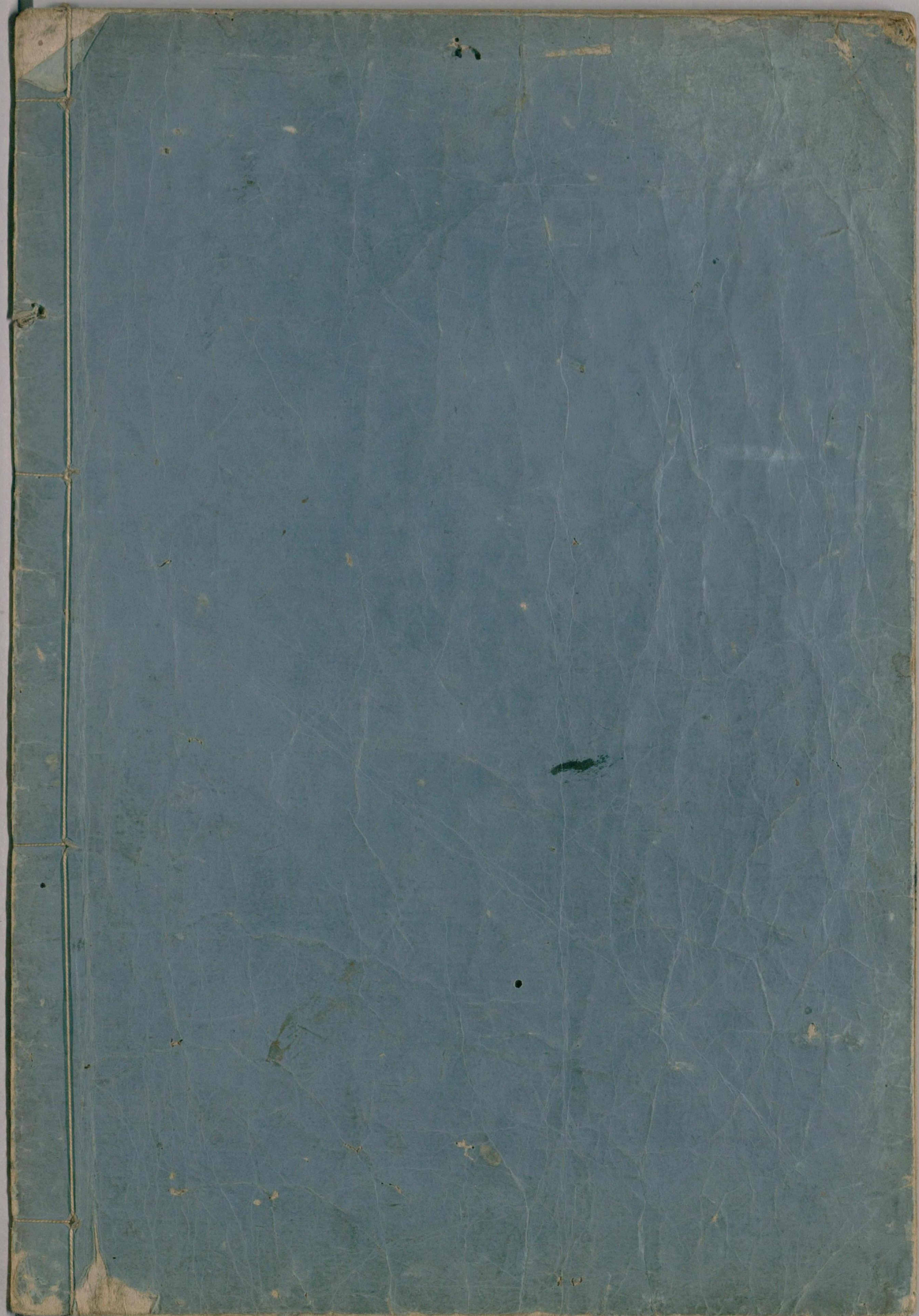
かよひの川 数里に如 度 渡船の便を
得たるがふれ 廿二日 總とて 諸し
接香 祝詞の こと 年々 後 乃 貞 孫 子 供
し ち び 報 恩 の ため なる 一 年 ぬ かり
す 爾

成き出りて

接衣菴



863
72



国立国会図書館 タイトル『春の夢』 請求記号 863-72

ガラス使用